道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

初めてのもみじ湖で記念撮影。紅葉時にも絶対に来ようっと！

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

平均年齢はやや高くとも、明るさと好奇心は幼な子のような５人組。

灼熱のパーキング。福澤さんのお陰でバイクが直ってバンザーイ！

中央アルプスとポピー園。なんと奇跡の貸し切り。亀ちゃん、オフにも入ったよ。

4月に続いて、今月も女子ツーリングに行ってきました。前回があまりに楽しかったので、「次は何処？」が飛び交う最近のカフェ。今回も花と絶景の信州ならお任せの前ちゃんこと前山日登美さんがコースディレクターです。テーマは「花と新緑の南信州を走ろう」。新緑のシャワーが眩しい箕輪町のもみじ湖、270種3千本のバラが楽しめる伊那市の「高遠しんわの丘ローズガーデン」、酪農家が始めたという南箕輪村南原のフクロナデシコ、上伊那郡飯島町の「アグリネイチャーいいじま」のポピー園、そして下伊那郡松川町のワインとシードル醸造販売している「ＶｉｎＶｉｅ（ヴァンヴィ）」さんでノンアル乾杯という盛りだくさんな計画です。

300キロ予定で高速道路利用もありとのことで、前回の小型バイク女子2人は同行できず、代わってカフェ初期からの常連さん、松本市の亀ちゃんこと亀野明美さんが加わりました。亀ちゃんは20歳で中型バイク免許、40代半ばでリターンして大型にも乗り始めた大型女子（背が高くて足が長い）。サーキット走行やロードレースライダーの中野真矢さんの熱烈ファンで、とにかく友達が多い人。最近はオフロードにも凝っていますが、オンロードツーリングで一緒に走るのは初めてなので楽しみ。

当日は晴天。長野自動車道のみどり湖ＰＡで集合し、バイク3台で中央道伊北ＩＣまで走り、下道を快適に進みます。と、どこかで見た2台をコンビニで発見。「下道で現地集合なら行ける」とオプション参加の吉川さんと袖山さん（4月のメンバー）です。もみじ湖の見事な新緑カエデの中で合流できて、なんだか嬉しい。でも、話題はもっぱら道にぶら下がっている毛虫のマイマイガ。みんな大嫌いみたいで、避けながら走ったとか（私は全然気にならなかった？けれど）。下道の二人は伊那市の「かんてんぱぱガーデン」が目的地ですが、次のローズガーデンでまた集合することにしました。走り出すと時々バックミラーに映ったり消えたり、信号待ちで会えたり。ソーシャルディスタンスのためにマスツーリングは4名までを死守しているのですが、「出先で出会って外ランチ」って新しいツーリングスタイルかも？

と、目的地が近くになった時、アクシデント発生（亀ちゃん）「そんなことできないよ。アクシデントも旅。一緒にいるよ（みんな）」なんて会話をしていたのに、一気に旅続行可能に。神様はいるものですね。それにしても亀ちゃん、顔が広い！

下道の2台と別れ、一路ポピー園へ。ローズとフクロナデシコはパスしたけれど、見事なポピーのテント下でランチ。そして、中央アルプスと南アルプスに囲まれた丘陵地帯にある「ＶｉｎＶｉｅ」へ。「ここまで来られてよかった」。塩見岳を望みながら飲んだシードル（ノンアル）の美味しかったこと。実家のリンゴ園に仲間と共に醸造所を作り上げたという竹村さん夫妻は、もちろんライダー。最近目の前の農道が立派な舗装路になり、バイクが通ると気になって眺めちゃうそうです。帰りは高速で一気に家路へ。南信州は久し振りでしたが、信号も少なくちょうどいいカーブと高低差で心地いい道がどこまでも続き、走りながらニコニコしっぱなし。ワインと笑顔とお土産話いっぱいですが、アクシデントも出会いという宝物だったし、文句なしの満点旅でした。ちゃんちゃん♪

遠くには南アルプスも。9分咲きポピー天国の中でお花見ランチ♪
『写真：前山日登美』

りんごとぶどう畑に囲まれ、塩見岳を眺めながらシードルごっくん。幸せ～

「販売店さんの積載車待つから、みんなは旅を続けて（亀ちゃん）」「そんなことできないよ。アクシデントも旅。一緒にいるよ（みんな）」なんて会話をしていたのに、一気に旅続行可能に。神様はいるものですね。それにしても亀ちゃん、顔が広い！

下道の2台と別れ、一路ポピー園へ。ローズとフクロナデシコはパスしたけれど、見事なポピーのテント下でランチ。そして、中央アルプスと南アルプスに囲まれた丘陵地帯にある「ＶｉｎＶｉｅ」へ。「ここまで来られてよかった」。塩見岳を望みながら飲んだシードル（ノンアル）の美味しかったこと。実家のリンゴ園に仲間と共に醸造所を作り上げたという竹村さん夫妻は、もちろんライダー。最近目の前の農道が立派な舗装路になり、バイクが通ると気になって眺めちゃうそうです。帰りは高速で一気に家路へ。南信州は久し振りでしたが、信号も少なくちょうどいいカーブと高低差で心地いい道がどこまでも続き、走りながらニコニコしっぱなし。ワインと笑顔とお土産話いっぱいですが、アクシデントも出会いという宝物だったし、文句なしの満点旅でした。ちゃんちゃん♪

九州の散歩道

雨に濡れた緑も美しい、「菊池渓谷」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

今年は梅雨入りが早く、九州ではゴールデンウィーク明けから雨が多くなっています。激しい雨は困りますが、多少の雨はしっとりした風情があって嫌いではありません。とりわけ新緑の季節は一層緑が輝くような気がします。

熊本県の菊池川の上流、その水源となっている菊池渓谷は、子どもの頃から家族で何度も訪れたことのある場所。一帯はうっそうとした天然の広葉樹に覆われ、その間を渓流が大小さまざまな流れや滝をつくり、変化に富んだ景色を生み出しています。渓谷周辺は「天然のクーラー」と呼ばれるほど涼しく、夏でも水温は平均13度ほど。避暑地としても人気があります。

太陽の光がまぶしい夏も、木々の紅葉が美しい秋も、四季それぞれにいいのですが、私が好きなのは雨のそぼ降る緑の季節。濡れた緑の美しさはもちろん、空気までしっとりとした独特の雰囲気が漂います。雨上がり、光が差し込む瞬間の美しさも格別です。

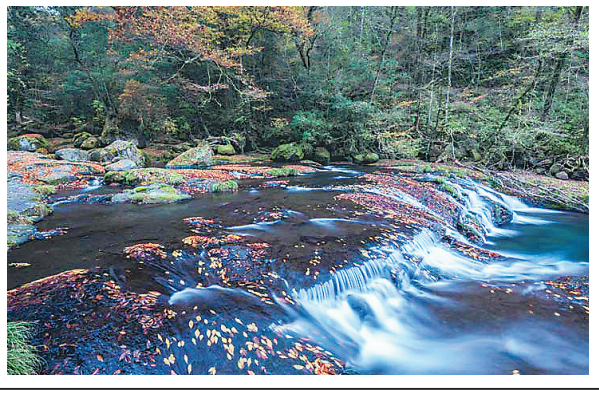
夏の菊池渓谷には「光芒」と呼ばれる現象が出現します。夏の早朝、太陽の強い光が渓谷の水煙を照らすことで現れる幻想的な光景です。この「光芒」は前日に夕立が降ると出現することが多いとも聞きます。雨が降って、翌朝にはすっきり晴れるからかもしれませんね。

渓谷沿いには遊歩道が整備されており、往復30分程度の〝癒しのコース〟と、往復1時間強の〝満喫コース〟があります。傾斜が緩やかなので歩きに自信がない人でも気軽に歩くことができ、マイナスイオンを浴びながらの森林浴を満喫できます。渓谷の入り口には観光情報を発信するビジターセンターもあり、ヤマメの塩焼きなど地元の味も楽しめます。

地元の味といえば、渓谷近くでぜひ立ち寄りたいのが「七城（しちじょう）メロンドーム」。年間100万人以上が訪れる道の駅で、その名の通り、屋根に載った巨大なメロン型ドームが目印です。店内に入ってみると見渡す限りにメロンが並んでいます。七城町はメロンの生産地として有名で、糖度が高くて美味しいメロンに定評があります。「肥後グリーン」「アールスメロン」など、メロンは種類によって少しずつ旬の時期が違うので、初夏から12月頃まで旬のメロンを楽しむことができます。メロンを使ったスイーツや、江戸時代から旨い米の代名詞とされた菊池米の流れを汲むお米など、豊富な農産物が販売されています。

（写真提供：九州旅ネット）

緑の間から木漏れ日が差し込む初夏の菊池渓谷


紅葉した落葉が流れる様も美しい秋の菊池渓谷

ハッと思いました

梅雨入りの季節です。じめじめした憂鬱な時間が長引く自粛のイライラと重なって、ため息をつく回数が増したようです。

でも、梅雨明けと共にやってくる初夏の匂い、草の蒸せかえる様な、モワッとしたあの匂いが、結構好き、待ち遠しいです。変かな？

つい先刻、危惧していた事がおきました。電動キックボードが起因の事故。登録もしていない車両でご婦人に怪我をさせて、逃げ去ると言う信じられない事故・事件です。他にも、「迷惑かけてないからいいじゃん」と、意味不明な言葉を発して乗り回す馬鹿者、いや若者。こうなる事は容易に予測できたはずです。利用した者も、提供した者も、認可した者も、全て、考えが安易で無責任極まりない。あきらかに人災です。

公道の安全を脅かさない様に、一刻も早く適正な判断を下すべきです。

さて、クルマを運転中のドライバーは、前方、後方、右側左側、車内、計器類を常に目視しています。そうしているはずです。漫画本やスマホを見ながらなど言語道断。加えてドライバーの目線は、ルームミラーに映る後続車や前を行く車のドライバー目線そして、歩行者の目線にも注意しなければなりません。

つまり、モノの動きとヒトの動きを出来る限り把握するということです。目と目が合うアイコンタクトでスムーズな交通を生み出す事が出来ると思っています。

歩行者の安全な横断、車同士の合流、雨の日ならば水撥ねとかに、気配りが出来るはずです。少しの気配りと譲り合いで、息が合う交通状況を作りませんか。いつまでも、「自分だけは」と、特別扱いせず真の大人になりましょう。